

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-730	12-115	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>Adiponectin, systolic blood pressure, and alcohol consumption are associated with more aortic stiffness progression among apparently healthy men.</p> <p>健康な男性におけるアディポネクチン、収縮期血圧、アルコール消費量と動脈硬化進展との関連</p>		
<b>執筆者</b>		
<p>El Khoudary SR, Barinas-Mitchell E, White J, Sutton-Tyrrell K, Kuller LH, Curb JD, Shin C, Ueshima H, Masaki K, Evans RW, Miura K, Edmundowicz D, Sekikawa A. the ERA JUMP Study Group</p>		
<b>掲載誌</b>		
<p>Atherosclerosis. 2012 Dec;225(2):475-80.</p>		
<b>キーワード</b>		
<p>動脈硬化、一般住民、アディポネクチン</p>		
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b></p> <p>健康な集団における動脈硬化の進展に対する危険因子については限られたデータしかない。アメリカ一般住民男性において動脈硬化の進展の可能性のある独立し予後予測因子である危険因子について検討した。</p> <p><b>方法：</b></p> <p>ERA-JUMP 研究のピッツバーグでの参加者から調査開始時に循環器疾患既往のない40代の男性 240 人を対象とした。動脈硬化は調査開始時と追跡時(4.6±0.2 年後)に cf-PWV(頸動脈-大腿動脈間大動脈脈波速度)が測定された。動脈硬化の進展は cf-PWV の 1 年毎の変化で評価した(%変化/年)。線形回帰を用いて、調査開始時の動脈硬化の可能性のある危険因子と一年間の変化について評価した。調査開始時年齢、追跡期間、人種、心拍数、薬物使用がすべてのモデルで検討された。</p> <p><b>結果：</b></p> <p>追跡期間中、調査開始時と比較して、動脈硬化は年ごとに 0.3±0.5%増加した。最終モデルにおいて、動脈硬化の進行の程度を独立して予知した因子はアディポネクチン濃度の低値(p=0.03)、収縮期血圧の高値(p=0.04)、大きな収縮期血圧の年間の変化(p=0.04)、飲酒回数が週 2 回以上(p=0.02)であった。アディポネクチン濃度の第 3 分位(9.8~13 μg/ml)、第 4 分位(13 μg/ml 以上)は第 1 分位(7.0 μg/ml 以下)と比較すると、年ごとの動脈硬化の進展と有意な関連を認めた。</p> <p><b>結論：</b></p> <p>健康な男性において、調査開始時のアディポネクチン濃度が低いことは動脈硬化の進展のリスクが大きいことの新規マーカーとなる可能性がある。アディポネクチンの時間的な変化が動脈硬化の進展と同じように関連するかどうかを評価するために、経年的な研究が必要である。</p>		